



聖母子像 Sedes Sapientia □ (部分) 学園聖堂

いのちの価値を伝えるミッション

東京純心女子大学図書館長
浦田カズ代

学園は新入生を迎え、復活祭の喜びと共にまた新しい歴史のページを刻み始めた。21世紀は「いのちの世紀」と言われ、社会の動きは年を重ねるごとにいのちに対する課題は増してゆく。氷山の一角とは言え、背筋が凍るような事件が日常茶飯事に報道され、「いのちの叫び」は収まらない。人間が人間として寄り添う社会から人間らしさを失い、恰も動物を扱うような社会に変化しつつある。現代社会の病理とは一体何であろうか。

紀元一世紀のアレキサンドリアには、すでにコインを入れると一定の水が出る仕掛けがあったと言う。人間の知恵は常に便利で快適な生活を築き上げてきた。中でも宇宙にまで及ぶ昨今のコミュニケーション・ツールの発展はすさまじい。自動販売機が出回り始めたころ、機械が商品を販売する不思議を誰もが感じたものだ。つまり、人と人との生の付き合いから、人は知らずして多くのものを学んでいたのである。不便に見えて面倒なことに貴重な宝が隠されていた。人は便利さゆえに失った宝があることに、いま気づき始めた。

考えてみると2000年前のイエスの「弟子募集」は、実に魅力があったようだ。テレビやラジオ、ポスター、イン

— もくじ —

◆ 事業報告書	
【1】法人の概要	・・・2
【2】事業の概要	
1. 平成21年度の主な事業	・・・4
2. 東京純心女子大学の諸活動	・・・6
3. 東京純心女子中学校・高等学校の諸活動	・・・10
【3】財務の概要	・・・14
◆ 資金収支計算書	・・・16
◆ 消費収支計算書	・・・17
◆ 財産目録	・・・18
◆ 貸借対照表	・・・19
◆ 監事による監査報告書	・・・20
◆ 過去5年間の消費収支計算書・貸借対照表	・・・21
◆ 平成22年度 主な事業の計画	・・・23
◆ 平成22年度の予算	
1. 平成22年度予算の概要	・・・25
2. 平成22年度資金収支予算書	・・・26
3. 平成22年度消費収支予算書	・・・26
◆ 平成22年度の主な行事予定	・・・27

ターネットもない時代に、3000人、5000人と人が集まったと聖書は記述している。彼は、人々の病を癒し心の重荷を軽くし、飢えを満たす。その魅力ある生き方に人は魅せられ集まった。彼は言葉だけでなく、いのちの叫びに目を向け愛の眼を注ぎ、自ら寄り添う。その姿に人々は生きる意味と希望と力を見出した。純心教育も全人類のために、このイエスに代わり寄り添う愛のミッションを与っている。

便利なツールと情報過多の時代であって、人は野心や流行や世間体に隷属し、本当のいのちの叫びが聞こえない。生前の功績は愚か、死後の功績まで目指して生涯を粉飾することにいのちを注ぐ。2000年の時代を経てもぶれぬ心、つまり時代や国を超えても普遍Catholicであるこの真実を求め続けるカトリック・ミッションをこそ、希望をなくした社会が、実は一番必要としている光なのである。不便さいのちをかけて生きるとき、人と人との絆を強く結ぶ。「いのち」それはこの世界で終るような無価値なものではない。復活の霊のいのちである「永遠の幸を生きるいのち」に続くことに希望をおきたい。イエスの受難と十字架を通しての輝かしい復活はこのことを私たちに想い起こさせる。
(2010年5月)

◆ 事業報告書

【1】法人の概要

<設置する学校・学部・学科等>

1. 東京純心女子大学

東京純心女子大学は、現代文化学部国際教養学科、こども文化学科、芸術文化学科の3学科を設置し、キリスト教（カトリック）に基づいた教育理念に則り、平和な地域社会と国際社会のよき担い手となる「愛に根ざした真の知恵」を身につけた女性の育成を目的としています。「聖母マリアの姿にならう人格形成」「普遍的真理の探究」「国際社会にいきる教養の体得」を柱として、豊かな現代文化の創造と発展に貢献できる女性を社会に送り出すことを目指しています。

現代文化学部

・国際教養学科

国際的な教養、英知を修得し、見識を深めていきます。英語を始めとする外国語を基盤としたリベラルアーツの研究を通して、視野の広い真の国際人養成を目指します。

個人の心の中に始まり、地球全体に及ぶ広い分野が研究の対象です。既成の学問分野を超えた学際的研究で、国際社会、諸文化を研究し、既成の概念にとらわれない、新しい発見が可能となります。さまざまなコースから選択できる「学び」により、豊かな人間性を育成します。自由な思考、知識の獲得に加えて、用意された実践の場 - 言語文化海外実習、東京在住の外国人家庭でのホームステイを行う国内ホームステイ、小学校・中学校・企業・NPO組織等でのインターンシップ等 - で実践力を養います。

・こども文化学科

こどもが、その無限の可能性を開花できるための支援を行える人材を育成します。毎日・少しずつ・繰り返し・続ける「楽しさ」を大切に学習活動を行います。

保育園、幼稚園に勤めたい、小学校に勤めたい人に向けた3つの資格（保育士、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状）と、身体表現に関心がある人に向けた資格（ダルクローズ・国内リトミック免許《エレメンタリー》受験資格）や自然体験活動「キャンプ」を支援する資格（キャンプインストラクター）が取得可能です。そのため、保育士と幼稚園教諭課程では「あそび」「こどもの気持ち」「こどもの文化」に理解を示せる保育者となるのに必要な講義や演習、そして野外文化活動、からだあそび、造形あそび等の体験的な授業や、心理学、絵本論、地域福祉論といったこどもへの理解を深める授業をラインアップしています。

・芸術文化学科(平成22年度新入生より学生募集を停止し、国際教養学科に統合)

芸術は、人の心を「揺さぶる」「結ぶ」「癒す」「元気づける」「浄化する」といったさまざまな力を持っています。芸術文化学科では芸術の持つさまざまな力を社会で活かすことのできる人材の育成を目指します。芸術をとおして「考察する」「創作する」「表現する」「指導する」「コーディネートする」「マネジメントに携わる」ことを、芸術の「基礎」「鑑賞」「歴史」「福祉」「環境」「運営」などの視点から学ぶことができるのは、文系大学で芸術を学ぶ最大のメリットとなっています。そうして得た学びの成果（教員免許や学芸員などの資格を含む）を社会のいろいろな仕事に活かすことができる女性の活躍を、現代社会は求めています。

基礎から高度な専門分野にいたるまでの芸術教育をとおして、「ていねいに」「きびしく」「あたたかく」芸術的にも人間的にも成長させて、社会に送り出しています。

2. 東京純心女子中学校・高等学校

東京純心女子中学校・高等学校はキリストの「み教え」にのっとり、やさしく、かっこいい久遠の女性、聖母マリアを仰ぎ、純粋なやさしい心情と高い知性を兼ね備えた献身的な、キリスト教の精神に基づく女性を育成することを目指しています。

知性と品性をあわせもつ人間の育成を行っています。

「知の教育」

少人数制授業や習熟度別授業などを導入した、きめ細かいカリキュラムを設定しています。6年間を導入期・展開期・完成期の3段階に分けた3ステージ制でしっかりと実力を伸ばしながら、希望進路に幅広く対応した指導を行います。

「こころの教育」

朝礼や宗教の時間を通し、聖書の精神を学び、自己について考える機会を持つことで、純心の教育理念が具体化されます。また、労作における作物の栽培や収穫、ボランティア活動など、人や自然とふれあうことで心の成長に繋がっています。

<学生・生徒在籍状況>

		平成21年5月1日現在		平成22年5月1日現在	
東京純心女子大学		入学定員	在籍者数	入学定員	在籍者数
現代文化学部	国際教養学科	60名	96名	60名	94名
	こども文化学科	60名	218名	60名	217名
	芸術文化学科	50名	103名	-	67名
大学計		170名	417名	120名	378名
東京純心女子高等学校		140名	381名	140名	397名
東京純心女子中学校		140名	391名	140名	388名
合計			1,189名		1,163名

芸術文化学科は平成22年4月より募集停止

<役員等の状況 平成21年度 >

理事・監事

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	高野 澄子	監事	榊原 侏一
理事	山野 アヤ子		宮本 久雄
	松尾 式之		
	岩崎 淳子		
	浦田 カズ代		
	清水 司		
	日野 正晴		

評議員

氏名	
高野 澄子	松尾 式之
岩崎 淳子	清水 司
日野 正晴	浦田 カズ代
小野田 有	原田 泰宏
吉田 直哉	鵜池 あさえ
大塚 久代	宮澤 照子
和田 晶子	パウチスタ・マッサ
吉田 紀子	

<教職員の状況>

(平成21年5月1日現在)

	法人	大学	高等学校	中学校	計
専任教員	-	38名	26名	21名	85名
専任職員	2名	21名	9名	4名	36名
非常勤教員	-	57名	20名	14名	91名
非常勤職員	1名	9名	4名	4名	18名
計	3名	125名	59名	43名	230名

<理事会・評議員会>

平成21年度は次のように開催しました。

平成21年	4月 18日	理事会
	5月 22日	理事会・評議員会
	7月 6日	理事会
	7月 27日	理事会
	10月 24日	理事会・評議員会
平成22年	2月 27日	理事会・評議員会

<常任理事会>

平成21年	4月 20日
	5月 19日
	6月 16日
	9月 25日
	10月 19日
	11月 16日
	12月 14日
平成22年	1月 18日
	2月 9日
	3月 23日

【2】 事業の概要

1. 平成21年度の主な事業

(1) 大学の部

① 芸術文化学科の学生募集停止

平成22年度新入生より芸術文化学科の学生募集を停止しました。芸術文化学科は国際教養学科へ統合し、現代文化学部国際教養学科、こども文化学科の1学部2学科（学生定員120名）の新しい体制となります。本学の持つ教育資源を集中させることで、これまで本学の特色として行ってきた少人数教育の効果をさらに高めていくこととなります。

② 日本高等教育評価機構による認証評価の受審

日本高等教育評価機構により、法令に定められた認証評価を受審しました。評価の結果、東京純心女子大学は機構の定める大学評価基準を満たしていると認定されました。

（認定期間：平成21年4月1日～平成28年3月31日）

評価の対象は大学の教育内容、学生募集及び財政等に関する経営状況など11項目で、「八王子市と連携した子育て支援事業」や、「『児童英語教室』『学校インターンシップ』などの授業カリキュラムとして取り組んでいる地域社会との連携」については、特に本学の「優れた点」として積極的に評価されました。

③ 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）への取組

文部科学省の「大学改革推進事業 学生支援推進プログラム」に採択された『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導体制の強化』への取組を行いました。

カリキュラムにおける進路指導体制の充実、学生の進路選択に繋がる資格取得支援講座の開講、インターンシップの拡充、就職活動でのスキルUP効果が期待できる一般教養・面接対策講座の実施などさまざまなプログラムを行いました。また、学生用パソコン、就職関連書籍・DVD等の新規整備など、学生の進路選択に係わる情報収集環境の充実を図りました。

(2) 中学校・高等学校の部

① 入学定員変更 及び 中学校入試におけるSSS入試の実施

中学入学定員を140名に増やし、高校入学定員を140名に削減することで、段階的に在籍定員の調整を行っています。平成22年度新入生入試で高等学校での募集を終了し、完全中高一貫教育に移行します。また、中学校入学試験においては、合格者の中から成績優秀者15名程度を特別奨学生とし入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラーシップ・スチューデント - 奨学生選抜）を実施しました。

中学校・高等学校 入学時納付金の見直し

平成22年度新入生から入学時納付金を変更しました。本校への進学を考える受験生への配慮として、中学校・高等学校ともに入学初年度の経済的負担を軽減するものとなりました。

(3) その他の事業

① 安全対策

- ・新型インフルエンザ流行への対策として、消毒液・マスクなどを備蓄し、保護者等を対象とした新型インフルエンザ対策講演会を行いました。また、学園内における衛生環境保持のため各校舎入口にアルコール消毒剤を常設しました。
- ・第2体育館窓ガラスの一部交換及び飛散防止加工工事を実施しました。
- ・学園内道路の側溝に落下防止のグレーチングを増設しました。
- ・中学校、高等学校及び大学で火災避難訓練を実施しました。

② 主な施設設備関係

- ・学園聖堂（2号館）外壁の塗装工事を実施しました。
- ・平成23年7月のテレビ放送デジタル化に向け、学園内テレビのデジタル放送移行設備工事を行いました。地デジ対応アンテナ・増幅器・地デジチューナーを設置しました。
- ・学園のネットワーク環境のデータサーバ機や大学の基幹ネットワークスイッチなどの情報関連機器を更新しました。
- ・大学及び中学校、高等学校図書館のデータ管理・蔵書検索システム「情報館」のソフトウェア及びそ

れを運用するサーバ機を更新しました。

- ・大学校舎（3号館・英語棟）の一部トイレの改修工事を実施しました。
- ・大学校舎（3号館）保育実習指導センターの床張替工事を行いました。
- ・大学パソコン室等の教育研究用パソコン及びネットワーク機器を、新規リース契約により最新機種のものへ更新しました。
- ・大学校舎（3号館）階段及び屋上の一部、中学校舎（1号館）特別教室の一部の塗装工事を行いました。
- ・高等学校第44回卒業記念品として、純心学園前バス停脇に屋外用電波時計を設置しました。
- ・中高父母の会からの寄付によりセントメリーホール放送機器設備の入れ替えを行いました。
- ・中高印刷室の印刷機、裁断機を更新しました。
- ・中学校舎各教室の掲示板張替工事を行いました。
- ・大学後援会の寄付により、学生ホールに学生が自由に使用できる給湯器を設置しました。
- ・10号館に設置した外国人留学生寮を廃止しました。

③ 情報の公開

公共性の高い学校法人として関係者等への説明責任を積極的に果たすべく、大学ホームページに「東京純心女子学園広報 11」を掲載し、財務情報等を公開しました。

④ 特定資産への繰入れ

施設・設備充実資金として施設設備引当特定資産への繰り入れを行いました。また、退職金支払いの充当資金として退職給与引当特定資産への繰り入れを行いました。

⑤ 学園としての広報活動

八王子・多摩地域における更なる認知度定着を図るため、JR八王子駅・JR立川駅 中央線ホームの看板広告や、西東京バスの路線バスへのラッピングバス広告を行いました。

⑥ 規程の整備

「公益通報者保護規程」「契約事務規程」「資産運用規程」「大学 カウンセリングルーム規程」など、諸規程の整備を行いました。

【日本高等教育評価機構の認定マーク】



2009.4 - 2016.3

2. 東京純心女子大学の諸活動

(1) コースの設置等カリキュラムの改革

平成21年度から、学科の専門学科目を再編し、学生が所属学科の枠にとらわれることなく、自分の興味や目的・進路に合わせて自由に主専攻・副専攻として選択できるよう、『国際教養』『国際コミュニケーション』『児童英語教育』『英語』『アメリカ研究』『ヨーロッパ研究』『比較文化』『キリスト教文化』『音楽』『美術』『デザイン』『アート環境』『教育』『保育』『こども文化』『心理学』の「16のコース」を設置しました。学生自身が興味を持ったさまざまな専門領域を自由に学ぶことにより、自分なりの知識体系と自由な発想を身につけた個性豊かな人材の育成に繋がっていきます。「16のコース」は学科の再編と併せて平成22年度新入生から「多様なコース」として再編成を行いました。

また、担当教員が心に残る一冊、人生を決めた一冊など素材となる本を指定し、学生とともに読み込んでいく、本学独自の統合的な教養教育科目の『読書論』を開始しました。クラス討論などにおいて教員自身の世界観・人生観・教養などと結び付けながら徹底的に論じ合うことで、学生が「本の読み方」「世界観」「生き様」などを学んでいきます。学生の参加意欲と教員の個性・学識が浮かび上がる授業で、同じ授業を連続して受講し単位を8単位まで取得できることも大きな魅力となっています。

(2) 地域社会等との連携

① 児童英語教育活動

本学教員と学生、八王子市の公立小学校教員の連携により、学生の英語スキルの向上及び「ティーチャー・トーク・スキル」の育成と、児童に英語を学ぶ楽しさを伝え、英語への興味関心を育てることによる児童への「学習の広がり」を目指して、次のような英語活動プログラムを行いました。

- ・学生を小学校の「国際理解教育の授業」「外国語活動」に派遣する『学校インターンシップ』
- ・小学校教員と小学生、本学教員と学生が連携して、高尾わくわくヴィレッジで2泊3日で行う『高尾英語キャンプ』

② 八王子市子ども体験塾助成金事業による「こどもの国のクリスマス」開催

八王子市が子どもたちに夢や感動を与える体験に関する取組を応援するために実施する「八王子市子ども体験塾」に、本学で実績のある「こどもの国のクリスマス」が対象事業として選ばれました。

市内の幼児から小学生低学年までの児童とその保護者約400名が参加し、学生とともに歌や踊り、演奏やクリスマスツリー制作などの創作活動を体験しました。学生は「クリスマス絵本の読み聞かせ」「トーンチャイムの演奏」「オペレッタの上演」などを行い、日頃の学びの成果を披露しました。

③ 八王子市「地域子ども家庭支援センターみなみ野」への実習生派遣

「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指す八王子市と連携し、平成21年度より八王子市みなみ野の「子ども家庭支援センター」へ、こども文化学科の保育士・幼稚園教諭志望の学生を実習生として派遣しました。学生はボランティアとして参加し、センターを利用する子どもたちに「読み聞かせ」や遊び相手となるほか、来所した子どもの母親等の話し相手となるなど、地域の子育て支援事業に貢献しました。参加する学生自身にとっても子育ての現場で実体験を積むことができる貴重な経験となりました。

④ 『大学コンソーシアム八王子』『八王子未来学』への取組

八王子地域にキャンパスを有する23の大学等・八王子市・学園都市推進会議・学生委員会・商工会議所等が連携する『大学コンソーシアム八王子』に参画し、将来的にその中核事業となる『八王子未来学』（戦略的大学連携支援事業 平成20～22年度 14の大学・短大・高専が連携）の活動に参画しました。『八王子未来学』は、「地域のニーズや課題についての研究活動」「地域を実践の場とした問題提起型の教育活動」に取り組む、「八王子を学ぶ、八王子で学ぶ」教育研究プロジェクトで、「地域のシンクタンクとなる『知の拠点』の形成」「地域全体が学びの場となる『まるごとキャンパス八王子』」の実現を目指しています。平成21年度は、「FD/SD研修への参加」「単位互換制度への取組」や、「未来学主催の公園見学会への参加」が行われました。また「学生天国（八王子学生委員会主催）」「留学生日本語弁論大会」「学生発表会」などへ学生が積極的に参加しました。

⑤ 地域社会連携活動の推進

八王子市観光協会の主催するミニバスツアー『サクラ号』の受け入れや、『道の駅八王子滝山』『夕やけ小やけのふれあいの里』などにおける学生のイベント参加、『風の子幼稚園（市内）』園児の園外活動受入れなどによる交流事業、近隣保育園・幼稚園の行事、壁面装飾等への支援事業など、地域における社会連携活動を積極的に推進しました。

(3) 入試広報活動

- ・「大学案内」は、内容を絞り込みながらも、大学の多様化したカリキュラムを具体的に説明し、見やすさという点を重視して作成しました。
- ・本学の建学の精神及び教育理念を十分に理解し本学への就学を強く希望する志願者を対象とした特別入試制度を実施しました。「特待生入試」では特に優秀な成績の志願者に対して学納金の全額免除を、「特別奨学生入試」では優秀な成績でありながら経済的理由により就学の機会に恵まれない志願者に対して学納金の一部減免を行いました。
- ・オープンキャンパスを5/23・7/25・7/26・8/1・8/2・8/23・10/11・2/21・3/27と9回開催しました。オープンキャンパス参加者の多くが出願することから、広報活動の重要なイベントの一つとなっています。
- ・平成22年度より新しくなる本学の学びを紹介するダイレクトメールを作成し、高校の進路指導関係者などへ年に4回送付しました。また本学オリジナルのカードを作成し、志願者や進路指導関係者へ行事の案内や季節の挨拶を行いました。これらによって本学と志願者・進路指導関係者との継続的な関係を構築しました。
- ・指定校推薦校を中心に、本学への進学実績のある高等学校への高校訪問を積極的に展開しました。特にAO入試、推薦入試が実施されるまでの年度前半に集中的な高校訪問を行いました。
- ・韓国の優秀な留学生を確保するため、現地の留学コーディネーターと提携し、韓国語版大学ホームページを作成し現地における広報活動を展開しました。
- ・「西東京バスへのラッピングバス広告」「JR八王子・立川駅、西武線小川・玉川上水駅看板広告」「京王線窓上広告」「ラジオ局FM多摩でのCM」など、特に地元多摩地区における志願者全般に対して本学の知名度向上が期待できるような広報活動を行いました。
- ・外部アドバイザーと教職員による「学内広報研修会」を行いました。本学の戦略的広報プランについて検討し、今後の広報戦略の土台を作成するとともに、教職員の広報活動に関する知識とスキルの獲得を図りました。
- ・平成22年度新1年生入試の結果は、志願者151名、受験者141名、入学者95名と、入学定員の確保に至りませんでした。

(4) 生涯学習の推進

① 純心スカラー(科目等履修生)の受け入れ推進

少子高齢化が進む中で、大学には多様な学習機会の提供が求められています。本学においても18歳以上の女子で、12年の普通教育を修了している人すべてを対象とした、「純心スカラー(科目等履修生)」の受け入れを積極的に推進しました。「純心スカラー」は、大学が指定する科目の中から自由に科目を選択し、在生と同様に授業に参加し単位を取得することができます。単位取得者には科目等履修修了書が発行されます。平成21年度は17名(36科目)が、一般の学生とともに「純心スカラー」として本学で学びました。

② 公開講座等

本学では八王子市、八王子市教育委員会や八王子市学園都市文化ふれあい財団などの生涯学習機関と連携を図りながら、多くの人々に、大学の研究・教育・施設を開放し生涯学習の場を提供しています。

<平成21年度 主な公開講座等>

通年	オープンカレッジ	(本学及び八王子市学園都市センター)
通年	純心こどもの国 リトミックランド	(本学)
5/24	いちよう塾への提供公開講座 緑と光のコンサート ~オルガンとメソソプラノの調べ~	(八王子市タヤけ小やけふれあいの里)
6/13	いちよう塾への提供公開講座 文化講演会 「愛と平和のメッセンジャー“マザー・テレサ” Part ーグローバル化時代の世界を見る目- 講師:磯村尚徳氏」	(本学江角記念講堂)
7/7	いちよう塾への提供公開講座 「やさしい」という人間関係について考える	(八王子市学園都市センター)
12/4	純心こどもの国のクリスマス	(本学江角記念講堂)
12/12	クリスマスコンサート	(本学江角記念講堂)
2/28	いちよう塾への提供公開講座 東京純心女子大学ジョイントコンサート~踊り・歌・祈り~	(本学江角記念講堂)

(5) 純心ギャラリー

大学付属のミュージアム施設である純心ギャラリーでは「学芸員課程実習」「学生・教職員の芸術発表活動」「資料収集や調査研究」等を目的として、年間を通じてさまざまな企画展を開催しています。

6/15～7/18には現代日本の彫刻界を代表する加藤昭男氏の作品展「加藤昭男彫刻展」を開催し、約400名の来場者がありました。また、10/17～11/8には第7回東京純心アート・フェスティバル2009を開催しました。中高大の在校生及び大学・短期大学の卒業生から99点の作品が出品されました。

＜平成21年度 主な展覧会等＞

4/2～5/2	造形美術展（美術実技選択学生 20年度作品展）
5/14～30	純心ギャラリー所蔵品展
6/15～7/18	加藤昭男彫刻展
10/17～11/8	東京純心アート・フェスティバル2009
11/16～12/2	学芸員課程学生企画展「舞」
1/21～2/6	平成21年度 芸術文化学科 卒業制作展 3/19 平成21年度 芸術文化学科卒業制作展特別開催

(6) 進路指導

金融危機を発端とした長引く経済不況の影響により、企業等においては新規採用を控える傾向が一層強まり、平成21年度は学生にとって大変厳しい就職活動状況となりました。本学では、文部科学省の「大学改革推進事業 学生支援推進プログラム」として採択された『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導体制の強化』における取組を中心に、以下のような事業を行いました。

- ・「現代文化セミナー」や「キャリアセミナー」など、カリキュラムにおける入学時から一貫した進路指導。
- ・学生一人ひとりの「学ぶ目的」「卒業後の希望進路」等について明確な意識付けへと繋げるための、新入生を対象とした「自己発見レポート」の実施。
- ・EQ (Emotional Intelligence Quotient) 能力向上を目的とし、学生一人ひとりが自己変革と成長を経て、自主的・主体的・意欲的なポジティブ志向を身につけることに繋がる「NPD自己実現プログラム」の開講。
- ・「秘書検定対策講座」「カラーコーディネーター対策講座」など、学生の進路選択に繋がる資格取得支援講座の開講。
- ・アメリカ、オーストラリアの海外語学留学の研修先や、学生のニーズに応じたさまざまな業種におけるインターンシップ受入企業開拓の推進。
- ・「SPI対策セミナー」「就職のための一般教養集中講座」「面接対策集中講座」「保育士就職模擬試験」など、就職活動における実践的なスキルの向上に繋がる集中対策講座や試験の実施。
- ・学生の進路選択に係わる情報収集環境充実のため、学生用パソコンや、就職関連書籍・資格取得支援DVD等の新規整備。

＜平成21年度卒業生の就職・進路状況等＞

平成22年3月31日現在 (人数)

学 科	卒業生数	就職希望者				就職以外					
		希望者 A	決定者数 B	未決定者数	就職 決定率 (B/A%)	小計	大学院	専門学校	留学	研究生	その他
現代 英語	25 (40)	18 (27)	9 (23)	9 (4)	50.0% (85.2%)	7 (13)	1 (3)	- (1)	1 (0)	1 (1)	4 (8)
こども 文化	63 (64)	55 (55)	54 (52)	1 (3)	98.2% (94.5%)	8 (9)	- (1)	1 (1)	- (0)	- (1)	7 (6)
芸術 文化	29 (33)	16 (20)	3 (15)	13 (5)	18.8% (75.0%)	13 (13)	1 (1)	- (1)	- (0)	2 (4)	10 (7)
合計	117 (137)	89 (102)	66 (90)	23 (12)	74.2% (88.2%)	28 (35)	2 (5)	1 (3)	1 (0)	3 (6)	21 (21)

()内は平成20年度の実績

(7) 江角記念奨学金・学生表彰

創立者の建学の精神を理解、実践し、人物・成績ともに優れた3年次生の学生に対して、「江角記念奨学金」の給付を行いました。平成21年度は3名に対して、当該年度後期分の授業料が減免されました。また、平成22年3月19日学位授与式において、その活動が他の学生の模範となったとして「平成20年度聖母祭実行委員会」及び「音楽部（全日本合唱コンクール全国大会出場及び銀賞受賞）」の両団体に、学生表彰として学長賞が授与されました。

(8) 科学研究費補助金等 競争的資金獲得への取組

あらゆる分野における優れた独創的・先駆的な研究を格段に発展させることを目的とする科学研究費補助金は、我が国の研究基盤を形成するための基幹的研究費として大きな役割を担っています。平成21年度本学教員によって実施された科学研究費補助金研究事業は以下の通りです。なお「科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業」として、『ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI <アンニョンハセヨ！ 絵本と童謡で学ぶハングルと韓国の文化>』を、平成22年1月23日に本学で開催しました。参加した近隣の小・中学生にとって、絵本の読み聞かせなどを通して本学の韓国人留学生と一緒に韓国文化に触れることのできる貴重な異文化交流体験となりました。

学科・職名	氏名	研究種目	研究採択年度	研究課題名等
国際教養学科 講師	山賀尚子 (物井尚子)	若手研究B	H18年度採択	「国際理解教育が児童の理解・意識・態度の伸長及び自己の確立に及ぼす影響」
国際教養学科 准教授	満尾貞行	基盤研究C	H21年度採択	「公立小学校教員の外国語活動指導力アップのための研究」
こども文化学科 准教授	大竹聖美	若手研究B	H19年度採択	植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉 【科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業】 『ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI <アンニョンハセヨ！ 絵本と童謡で学ぶハングルと韓国の文化>』（平成22年1月23日 実施）

(9) 自己点検・評価活動と認証評価

平成16年4月1日の学校教育法の改正により、全ての大学が平成23年3月31日までに文部科学省の認証を受けた第三者機関による評価を受けることが義務付けられました。

本学では平成21年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審しました。評価にあたって、自己点検運営委員会及び自己点検・評価報告書作成委員会が中心となって自己点検評価を行い、評価報告書をまとめ、評価機構へ提出しました。報告書に基づく書面質問や3日間の実地調査などを通じて、本学は評価機構の定める大学評価基準を満たしていると認定されました。（認定期間：平成21年4月1日から平成28年3月31日）

評価の項目は、「建学の精神」「教育研究組織」「教育課程」「学生」「教員」「職員」「管理運営」「財務」「教育研究環境」「社会連携」「社会的責務」の11項目で、特に以下については本学の「優れた点」として積極的に評価されました。

- ・「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指す八王子市と連携し、大学の持つ教育研究資源を積極的に活用して子育て支援事業など特色ある地域連携を行っていることは、高く評価できる。
- ・約10年間継続して行ってきた「児童英語教室」や「学校インターンシップ」などは、地域社会との連携だけではなく、授業カリキュラムとしても効果的な取組みとなっており、高く評価できる。

3. 東京純心女子中学校・高等学校の諸活動

＜純心教育＞

(1) 知の教育

① カリキュラム等

本校では中高一貫教育のメリットを生かして、6年間を3段階に分けた「3ステージ制」を実施しています。

「導入期（中学1 - 2年）」・・・基礎学力の充実を図りながら創造的思考力の開発に努めます。

「展開期（中学3年 - 高校1年）」・・・応用力を育みながら生徒各自が自分の資質・適性を探ります。

「完成期（高校2 - 3年）」・・・コース制の導入で進路に合わせた効率的な学習を実施し、志望大学合格に必要な学力の強化を図ります。

二期制・週6日制により、豊富な授業時間と行事の多様性を確保しています。きめ細やかな少人数制授業や習熟度別授業を取り入れ、学ぶ目的を明確にして視野を広げる進路教育を行っています。さらに体験型の校外実習を組み合わせる主体的に学ぼうとする意欲を養いながら、生徒一人ひとりのニーズにしっかり対応しています。

② 図書館の充実

図書館は本校の「知の教育」の実践に欠かせない存在となっています。単なる読書の場としてだけでなく、本に親しみ自ら学んでいけるような学習センターとしての機能を提供できるように配慮しています。中学・高校はそれぞれに図書館が分かれていて専任の司書や司書教諭がいます。蔵書数は平成22年3月現在で中学が約2万7千冊、高校が約7万5千冊と、全国的に見ても高いレベルを誇っています。生徒への年間平均貸出冊数は、中学生で一人あたり28冊以上、高校生で26冊以上ととても多くの生徒に支持されています。夏・冬・春休みやゴールデンウィーク前などには必ず長期貸出を実施しています。また、新中学1年生を対象に「図書館の基本的なルール」や「知っておいて欲しい機能」の説明、本の分類の仕方と実際の分類体験、「読み聞かせ」などの図書館オリエンテーションを行いました。

ア) 授業との連携

- ・教科担当と連携して、授業をバックアップする調べ学習や読書指導、実践的な情報リテラシー教育により、自分に必要な情報を取り出し、解釈し、自分なりに表現する力を身につける指導を行いました。
- ・『純心図書100選』を作成し中学生全員に配布しました。各教科等の教員や図書館が生徒に推薦する本を『純心図書100選』としてまとめたもので、生徒の読書習慣を一層定着させるものとして活用されました。

イ) 情報発信とオンラインデータベースの充実

- ・学校行事、校内の話題、季節の話題、時事問題、生徒達の間で流行っている事などを取り上げ、それらに関連した本の貸し出しや展示、新聞・雑誌記事等の展示を行ったコーナー作りをしました。
- ・図書館通信の発行や、学校ホームページでの「今月のコーナー」掲載等を行い、図書館から生徒へ向けて積極的に情報を発信しました。
- ・「朝日けんさくくん」「Japan Knowledge」「ポプラディアネット」など、オンラインデータベース検索を充実させました。

(2) こころの教育

本校ではキリスト教の普遍的価値観と3ステージ制の各段階におけるさまざまな活動を通して、「人生とは何か」「生きるとは何か」という大きな課題とじっくり向き合うことにより、常に謙虚に、優しく、周囲と協調して、愛し愛される存在となる女性の育成を目指しています。

① 労作

「総合的な学習」のさきがけとも言えるべき科目の「労作」では、知性と感性、五感のすべてを使って、自然の摂理や生命のすばらしさ、大切さを学びます。

- ・花々や作物の世話を通して、土にじかにふれる機会を持ち、人間と自然との関わりを体験から学び考察します。
- ・グループ作業により、互いに協力する社会奉仕の精神を養います。
- ・各学年における生産的な活動を通して、勤労の貴さや、ものを育てる心、豊かな感受性、収穫の喜びを味わいます。
- ・手づくりの作物を口にする幸福を通して、食の安全など、地球の抱える諸問題の当事者である意識を高めます。
- ・季節によってさまざまな行事に協力するなど、学校生活全体にバランス良く係わる機会となります。

＜各学年における労作の活動内容＞

中学1年生	落花生の栽培	高校1年生	大根の栽培 (自家製たくあん作り体験)等
中学2年生	じゃがいもの栽培	高校3年生	サツマイモの栽培(焼きも大会)
中学3年生	陸稲の栽培 (稲刈り・脱穀・精米を行って餅つき大会)	その他	チューリップの植栽など 学園内花壇の手入れ 他

② ボランティア活動

中学1年生の施設訪問、中学2年生の清掃ボランティア、生徒会主催の募金活動や物資援助、点字・手話・車椅子介助の練習、夏休みボランティアなどを行いました。生徒はこういったさまざまな活動への参加を通して、他者をいたわる気持ちを、きちんと態度に表わし実践することの大切さを学んでいきます。

③ 宗教の授業等

- ・宗教の授業では、キリスト教の倫理観を軸に、賢く優しい女性としての素養を育みます。さまざまな問題や世界平和について理解を深め、調和と奉仕の精神、社会的なルールやマナーを兼ね備えた品格ある女性へと導きました。
- ・朝礼時の聖歌と聖書朗読、礼法指導、創立記念日のミサや、中学3年生・高校3年生対象の修養会、各学年に合わせた外部講師による講演会など、本校独自のプログラムを行いました。
- ・高校2年生では3泊4日の長崎研修旅行を行いました。創立者シスター江角ヤスと「建学の精神」について学んできたことを、知識として留めるだけではなく、純心のルーツである長崎の地を実際に訪れ、生徒自身の目で確かめ内面化し、あわせて世界平和を考える機会となりました。
- ・8/9(日)長崎原爆の日に、本校聖堂で生徒教職員が集い「純心祈りの日」として祈りを捧げました。登校していた教職員・生徒は、原爆投下時間の11:02に黙祷を捧げ、平和への誓いを新たにしました。

(3) 平成21年度の主な学校行事

4月	中学校・高等学校入学式(4/7)、オリエンテーション(4/9-10)、新入生歓迎会(4/9) 中学1年生オリエンテーションキャンプ(4/13-14)
5月	高校1・2年生授業参観(5/1)、中学生授業参観(5/2)、高校3年生修養会(5/13) 高校2年生長崎研修旅行(5/11-14)オープンキャンパス(5/16) 創立記念式典(5/30)
6月	スポーツ大会(6/6)、芸術鑑賞会(国立劇場-歌舞伎-6/24)
7月	高校1年生英語海外研修は新型インフルエンザの影響により中止
8月	中学2年生イングリッシュキャンプ(8/6-8)、理科校外研修(8/24-26)
9月	純心祭(9/19-20)
10月	中学3年学習旅行(10/28-31)、高校1年生研修旅行(10/30・31 山梨県富士吉田) 学年研修(10/30 中1-相模湖プレジャーフォレスト、中2-静岡富士宮、 高2・高3-テーブルマナー講座 京王プラザホテル八王子) 中学2高遠移動教室は新型インフルエンザの影響により中止
11月	高校英語スピーチコンテスト(11/25)
12月	クリスマスページェント(12/23)、クリスマス会(12/22)
1月	中学1年生スキー教室(1/13-15)、中学3年生修養会(1/13)、高校生お別れ会(1/18)
2月	中学生スピーチコンテスト(2/17)、中学合唱コンクール(2/23)
3月	マラソン大会(3/2)、高校卒業式(3/6)、中学卒業式(3/20) スキー・スノーボード教室(3/22-25)、吹奏楽部定期演奏会(3/28)

＜進路指導＞

私立大学でのセンター試験利用入試の拡大や、公募・自己推薦入試、AO（アドミッションズ・オフィス）入試など近年の大学入学試験は多様化が進んでいます。

本校では、生徒一人ひとりが希望する大学に合格できる学力をつけることを目指して、必修科目を増やし、総合的な力をつけることのできるカリキュラムと充実した補習・受験対策講座などを実施することで、私立・国公立、文系・理系・芸術系などそれぞれの進路に応じた指導を徹底しました。

- ・生徒が自分の実力をチェックすることができるように、中1から高3までの各学年において定期的に全国規模の模擬テストを実施しました。また、ファインシステム（ベネッセ）やKei-net（河合塾）を活用して、模擬テストの結果やリアルタイムな入試情報をもとにした、効果的な面談や指導を行いました。
- ・高校1年生では、進路について考える1泊2日（10/30・31）の宿泊研修を行いました。「コース選択と科目選択についてのオリエンテーション」「進路適性検査の結果分析」「進路選択に係わる疑問や、不安などについてのディスカッション」を通して、生徒は自分たちの進路についての理解を一層深めることができました。
- ・本校を卒業した大学生を招いて在校生との「在卒懇談会」を行いました。生徒にとっては「志望校の決定時期、方法」「受験勉強の進め方」「受験前の過ごし方」や「大学生活」などについて、貴重な話を直接聞くことのできる充実した体験となりました。
- ・難関大学の受験に積極的に取り組む生徒を対象に、国公立志望者ガイダンス・早慶入試問題研究を行いました。
- ・中学3年生及び高校1・3年生対象で、外部講師による進路ガイダンスを定期的に行いました。また、保護者を対象とした進路説明会、講演会を実施しました。

＜平成21年度大学等進路状況＞

（ ）内は平成20年度卒業生の実績

進路内容	人数	比率
4年制大学	95名（122名）	78.5%（84.1%）
短期大学	0名（2名）	0.0%（1.4%）
専門学校	3名（1名）	2.5%（0.7%）
その他	23名（20名）	19.0%（13.8%）
合計	121名（145名）	100.0%

＜生徒募集＞

(1) 中学入試

もともと公立志向の強い多摩・八王子地区ですが、教育に対して高い関心を持つ家庭が多くなってきています。受験生本人や保護者、進学塾における指導などの受験校を決める際の志望動機としては、進学実績を重視する傾向が強くなっていきます。そのような中で、これまで中学を併設していなかった私立高等学校の一部で新たに中学を開校する動きが多く見られます。また、学校の共学化、公立中高一貫校の躍進、全国規模の大学付属校の多摩・八王子地区への進出など、ここ数年間での中学・高等学校における募集活動は厳しいものとなってきています。更に、昨年度から続く経済不況の影響で、私学への進学や受験時の出願校数を控える傾向も一部にみられています。本校では入学定員の確保に向けてさまざまな取組を行いました。なお、平成22年度より高校募集を停止しているので、今後は中学入試での入学定員確保が一層重要となります。

- ・純心教育の特色や本校の魅力を、志願者や保護者にわかりやすく伝える機会として、オープンキャンパス（499名参加）やクリスマスページェント（938名）、学校説明会を開催しました。オープンキャンパス・クリスマスページェントの申し込みには学校ホームページを積極的に活用しました。
- ・インターネットの受験、教育関連サイトの特集ページなどへの広告・学校情報の掲載を積極的に行いました。また、保護者、特に父親へのアピールが期待されるビジネス関連雑誌に、学校紹介記事が掲載されました。
- ・合格者の中から成績優秀者15名程度を奨学生として、入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラシップ・スチューデント・奨学生選抜）を、本校及び立川駅周辺の会場で午後入試として実施しました。平成21年度は試験開始時間を30分繰り下げて15：30からとしました。
- ・1次、2次、3次入試はともに「国語」「算数」「社会」「理科」の4科目受験として、SSS入試のみ「国語」「算数」の2科目受験としました。

- ・ 志願者の利便性に配慮して、これまで窓口のみで行っていた出願を郵送でも可能としました。
- ・ 平成22年度新入生から入学時納付金を変更しました。本校への進学を考える受験生への配慮として、入学初年度の経済的負担を軽減するものとなりました。

< 中学入試結果の推移 >

(人数)

	平成22年度生入試 (平成21年度実施)				～参考～ 平成21年度生入試 (平成20年度実施)			
	1次 2/1	SSS 2/1 午後	2次 2/3	3次 2/4	1次 2/1	SSS 2/1 午後	2次 2/3	3次 2/4
募集定員	140名				140名			
応募者数	827名				830名			
	126名	283名	223名	195名	141名	269名	207名	213名
受験者数	547名				545名			
合格者数	296名				304名			
	69名	161名	31名	35名	74名	170名	46名	14名
入学予定者	130名				130名			

(2) 高校入試

高校入試は、推薦入試と一般入試をそれぞれ1回ずつ実施しました。

受験生・保護者を対象として、9・10・11月に本校で学校説明会を開催しました。また、校外では中高協会主催の私学展(8/22・23)や、私立学校合同の説明会・進学相談会に参加しました。

平成22年度新入生の高校入試結果は、出願者・受験者ともに16名で、合格者15名のうち12名が入学しました。平成22年度(23年度新入生)から高校は募集を停止するため、平成21年度の入試は完全中高一貫教育に向けた移行期間での最後の高校入試となりました。

< 生徒支援 >

(1) 江角記念奨学金

中学校卒業証書授与式で、人物・成績優秀で、クラブ活動を中学3年間熱意を持って取り組んだ生徒を対象に、「江角記念奨学金(学業奨励賞)」が授与されました。学園の創立者であるシスター江角ヤスの思いを汲んで、努力をした生徒にとって励みとなるもので、平成21年度は3名の生徒が選考されました。

(2) 家計状況の急変等による授業料減免制度の設置

学習意欲が高く本校の建学の精神を深く理解している中学及び高校の生徒で、在学中に家計状況の急変等により授業料の納入が困難になった場合、勉学に支障が起きないように、申請により授業料の一部が減免される制度を設置しました。

< 情報化社会への対応 >

高度情報化社会の実現により、中学・高校でもシステム化の推進や、情報処理教育の充実と環境の整備は欠かせないものとなっています。本校では、セントメリーホールコンピュータ室に、生徒用としてパソコン46台を整備しています。高校2年生の情報の時間や、理科・数学の教科の中で必要に応じてパソコンを利用した授業を行いました。また、教師の指導のもとで中学1年生から高校3年生まで毎日放課後16時から17時まで自由に使うことができるように対応しました。平成21年度は中学校、高等学校図書館のデータ管理・蔵書検索システム「情報館」のソフトウェア及びそれを運用するサーバ機を更新しました。

校務システムについては、運用状況に応じて毎年度必要な改修を行いながら運用しています。システム化によって、成績処理・学籍処理・入試広報業務などの校務作業全般が非常に簡素化されてきています。今後は現在運用されていない証明書発行などの機能を十分に活用することで、生徒指導の充実化と業務の合理化・共有化を進めていきます。

【3】 財務の概要

(1) 資金収支 (P16参照)

① 資金収入

学生生徒等納付金収入は授業料、入学金、実験実習費、教育充実費が主な収入で、1,024,129,220円となりました。大学学生数減少の影響により前年度よりも減少しています。

手数料収入は入学検定料が主な収入で17,704,340円となりました。中学校の午後入試の実施、大学における大学入試センター試験の実施校としての手数料収入などにより、前年度よりも増加しています。

寄付金収入は環境整備費、施設・設備整備費、大学クリスマスコンサート事業費などとして大学後援会からの寄付、及び施設・設備整備費などとして中学・高等学校父母の会からの寄付、並びに個人からの寄付金が主な収入で9,370,317円となりました。本学園は特定公益増進法人として証明を受けているので、寄付者に対しては寄付について所得税法における減免措置を受けることができる証明書の発行を行っています。

補助金収入は国庫補助金収入及び地方公共団体補助金収入で、427,842,780円となりました。大学の「学生支援推進事業（文部科学省）」への取組による補助金収入は8,000,000円です。一方、大学経常費補助金については学生数の減少に伴う減額措置によって、前年度と比べて減少しました。

資産運用収入は奨学基金運用収入、受取利息・配当金収入が主な収入で12,704,291円となりました。いわゆるリーマン・ショックから発生した金融危機の影響もあり、学校法人には特に安全面に十分配慮した資産運用が求められています。国債や定期預金による運用を行った結果、金利低下の影響で、資産運用収入は前年度に比べて大幅に減少しています。

事業収入は、補助活動事業収入・受託事業収入によるもので、4,362,000円となりました。大学留学生寮による寮費及び公開講座、中学・高校の春期・夏期講習の受講料などが主な収入となりました。雑収入は17,924,778円で、教職員の退職に伴う退職金財団からの交付金が主な収入です。

前受金収入が181,722,500円、その他の収入が45,205,370円、資金収入調整勘定が 232,495,878円、前年度繰越支払資金は894,548,408円です。その結果、資金収入の部合計は2,403,018,126円となりました。

② 資金支出

人件費は1,007,190,674円となりました。賞与の見直しを行ったこと、退職金支出が少なかったことなどから、前年度よりも減少しています。

教育研究経費は198,784,672円、管理経費は82,202,706円となりました。教育研究経費については、燃料価格の安定による光熱水費の減少、大規模な修繕費用がなかったこと、各業務で更なる経費の見直しを行い、焦点を絞ったメリハリのある予算の執行を行ったことなどにより、前年度よりも減少しています。管理経費については、各学校におけるさまざまな広報活動展開の影響などにより、前年度より増加しました。

借入金等利息支出は6,210,140円、借入金等返済支出は28,320,000円でした。建物等を取得した際の日本私立学校振興・共済事業団等からの借入金利息及び借入金返済のための支出です。

施設関係支出は5,462,909円、設備関係支出は39,471,994円となりました。学園聖堂の外壁塗装工事、大学校舎のトイレの一部改修工事、中高大教室等の一部塗装工事、セントメリーホール放送機器設備や情報関係設備の整備などの支出です。また、平成21年度より学校会計基準の取り扱いが変更しました。これに伴い新規ファイナンスリース契約により整備した大学教育研究用パソコン等の契約金額の一部が、契約初年度の平成21年度に教育研究用機器備品支出として計上されています。

施設・設備充実資金としての第2号基本金組入、退職給与引当特定資産への繰入を含めた資産運用支出は106,030,446円となりました。その他の支出が13,983,703円、資金支出調整勘定が 28,847,646円、その結果次年度繰越支払資金は944,208,528円となり、資金支出の部合計は2,403,018,126円です。

(2) 消費収支 (P17参照)

帰属収入は、学生生徒等納付金、手数料、補助金、寄付金等の学園に帰属する負債とならない収入で、1,517,079,807円となりました。

一般寄付及び特別寄付金に加えて、大学では後援会からの楽器類、学生ホールの温水給湯浄水設備、新型インフルエンザ対策備蓄品や、図書、パソコン等を、中学・高校では会議室用講義卓、折りたたみ椅子

(高校視聴覚室)、三連式ロッカー等の現物寄付があり、寄付金は12,412,398円となりました。

施設・設備充実資金として第2号基本金の組み入れを行ったため、基本金組入合計額は 80,000,000円です。消費収入の合計額は1,437,079,807円となりました。

未払い給与を含めた人件費は1,008,214,117円、減価償却額を含めた教育研究経費は379,802,169円、管理経費は87,598,677円となりました。借入金等利息は6,210,140円、図書などの除却による資産処分差額は2,453,285円となったので、消費支出の部合計は1,484,278,968円です。

当年度消費支出超過額は 47,199,161円、前年度繰越消費支出超過額は 2,321,362,286円、セントメリーホール新設時の機器備品類除却に伴う基本金取り崩し額が95,533,057円となりましたので、翌年度繰越消費支出超過額は 2,273,028,390円です。

(3) 財産目録 (P18参照)

土地が467,214,532円、建物が4,877,059,598円、図書が558,355,943円、備品等112,966,923円、その他の基本財産が41,308,993円で、基本財産合計は6,056,905,989円と前年度末よりも減少しています。

現金預金は944,208,528円、積立金が1,809,096,519円、その他の運用財産が23,790,950円となりましたので、運用財産合計は2,777,100,417円と前年度末より増加しています。資産総額では8,834,006,406円と前年度末より減少しています。

長期借入金は472,570,000円、退職給与引当金は230,654,916円となりました。また、学校会計基準の取り扱い変更に伴う新規ファイナンスリース契約による長期未払金が10,289,606円発生したので、固定負債合計は713,514,522円となりました。短期借入金が28,520,000円、前受金が181,722,500円、未払金が15,169,487円、その他の流動負債が51,130,331円でしたので、流動負債合計は276,542,318円となりました。その結果負債総額が990,056,840円となったので、正味財産は7,843,949,566円と前年度末より増加しています。

(4) 貸借対照表 (P19参照)

有形固定資産は6,053,700,025円、その他の固定資産が1,812,628,483円となりました。学園聖堂の外壁塗装工事、大学校舎のトイレの一部改修工事、中高大教室等の一部塗装工事、セントメリーホール放送機器設備や情報関係設備の整備と、図書・楽器類・パソコン・講義卓・折りたたみ椅子、ロッカー等の受贈、及び図書などの除却が行われました。現金預金は944,208,528円、教職員の退職に伴う退職金財団交付金の期末未収入金が昨年度より減少したため、その他の流動資産は前年度末より減少して46,915,471円です。貸借対照表における資産の部合計は8,834,006,406円と前年度末より減少しています。

長期借入金が472,570,000円、退職給与引当金が230,654,916円、会計基準の変更で大学情報関連機器のリース契約により計上することとなった長期未払金が10,289,606円となりましたので、固定負債合計は713,514,522円と前年度末より減少しました。返済期限が1年未満となった短期借入金が28,520,000円、その他の流動負債が248,022,318円となったので、流動負債は276,542,318円と前年度末より減少しました。施設設備・図書の固定資産取得、セントメリーホール新設時の機器備品類除却に伴う基本金取り崩し、図書の除却に伴う資産処分などにより、第1号基本金は9,140,977,956円となりました。第2号基本金は、施設・設備充実資金としての基本金組入が80,000,000円でしたので、657,000,000円となりました。その他3号及び4号基本金を合わせて、基本金合計額は10,116,977,956円と前年度よりも減少しました。前年度末繰越消費支出超過額は 2,321,362,286円なので、翌年度繰越消費支出超過額は 2,273,028,390円となり、貸借対照表における負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計は、8,834,006,406円となりました。

◆ 資金収支計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,023,846,220	1,024,129,220	283,000
手数料収入	16,765,020	17,704,340	939,320
寄付金収入	9,372,000	9,370,317	1,683
補助金収入	428,497,723	427,842,780	654,943
国庫補助金収入	107,467,075	106,812,000	655,075
地方公共団体補助金収入	321,030,648	321,030,780	132
その他の補助金収入	0	0	0
資産運用収入	12,644,000	12,704,291	60,291
資産売却収入	0	0	0
事業収入	4,329,000	4,362,000	33,000
雑収入	17,688,847	17,924,778	235,931
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	164,405,000	181,722,500	17,317,500
その他の収入	43,014,731	45,205,370	2,190,639
資金収入調整勘定	230,853,647	232,495,878	1,642,231
前年度繰越支払資金	894,548,408	894,548,408	
収入の部合計	2,384,257,302	2,403,018,126	18,760,824

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,007,442,433	1,007,190,674	251,759
教育研究経費支出	205,893,159	198,784,672	7,108,487
管理経費支出	86,664,024	82,202,706	4,461,318
借入金等利息支出	6,210,140	6,210,140	0
借入金等返済支出	28,320,000	28,320,000	0
施設関係支出	5,650,000	5,462,909	187,091
設備関係支出	42,010,000	39,471,994	2,538,006
資産運用支出	106,030,446	106,030,446	0
その他の支出	19,569,428	13,983,703	5,585,725
予備費	(2,221,543) 22,778,457		22,778,457
資金支出調整勘定	18,288,553	28,847,646	10,559,093
次年度繰越支払資金	871,977,768	944,208,528	72,230,760
支出の部合計	2,384,257,302	2,403,018,126	18,760,824

◆ 消費収支計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,023,846,220	1,024,129,220	283,000
手数料	16,765,020	17,704,340	939,320
寄付金	11,319,487	12,412,398	1,092,911
補助金	428,497,723	427,842,780	654,943
国庫補助金	107,467,075	106,812,000	665,075
地方公共団体補助金	321,030,648	321,030,780	132
その他の補助金	0	0	0
資産運用収入	12,644,000	12,704,291	40,291
資産売却差額	0	0	0
事業収入	4,329,000	4,362,000	33,000
雑収入	17,688,847	17,924,778	235,931
帰属収入合計	1,515,090,297	1,517,079,807	1,989,510
基本金組入額合計	80,000,000	80,000,000	0
消費収入の部合計	1,435,090,297	1,437,079,807	1,989,510

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,008,465,876	1,008,214,117	251,759
教育研究経費	387,519,470	379,802,749	7,716,721
管理経費	92,059,995	87,598,677	4,461,318
借入金等利息	6,210,140	6,210,140	0
資産処分差額	2,453,285	2,453,285	0
徴収不能額	0	0	0
予備費	(2,230,192) 22,769,808		29,546,573
消費支出の部合計	1,519,478,574	1,484,278,968	35,199,606
当年度消費支出超過額	84,388,277	47,199,161	
前年度繰越消費支出超過額	2,321,362,286	2,321,362,286	
年度消費支出準備金繰入額	0	0	0
年度消費支出準備金取崩額	0	0	0
基本金取崩額	88,894,393	95,533,057	0
翌年度繰越消費支出超過額	2,316,856,170	2,273,028,390	

◆ 財産目録

財産目録

(平成22年3月31日現在)

(単位：円)

資産総額	8,834,006,406円
内 基本財産	6,056,905,989円
運用財産	2,777,100,417円
収益事業用財産	0円
負債総額	990,056,840円
正味財産	7,843,949,566円

区 分	(数 量)	金 額
資 産 額		
1 基本財産		6,056,905,989
土 地 (団地)	92,520.00 m²	467,214,532
(1) 滝山校地	54,611.00 m ²	330,408,293
(2) 丹木校地	1,791.00 m ²	48,324,150
(3) 那須校地	36,118.00 m ²	88,482,089
建 物	32,934.72 m²	4,877,059,598
(1) 校 舎	20,288.64 m ²	3,291,211,552
(2) 図 書 館	1,480.85 m ²	143,026,985
(3) 講堂・体育館	6,542.22 m ²	617,015,696
(4) その他	4,623.01 m ²	825,805,365
図 書	192,358 冊	558,355,943
教 具・工 具・備 品	1,959 点	112,966,923
そ の 他		41,308,993
2 運用財産		2,777,100,417
現 金 預 金		944,208,528
(1) 現金 現金手許有高		2,740,915
(2) 普通預金		113,717,280
(3) その他		827,750,333
積 立 金		1,809,096,519
(1) 利付国債		20,000,000
(2) その他		1,789,096,519
有 価 証 券		0
そ の 他		23,795,370
3 収益事業用財産		0
資 産 総 額		8,834,006,406
負 債 額		
1 固定負債		713,514,522
(1) 長期借入金		472,570,000
日本私立学校振興・共済事業団		162,170,000
その他		310,400,000
(2) 学校債		0
(3) 未払金		10,289,606
(4) 退職給与引当金		230,654,916
2 流動負債		276,542,318
(1) 短期借入金		28,520,000
(2) 前受金		181,722,500
(3) 未払金		15,169,487
(4) その他		51,130,331
負 債 総 額		990,056,840
正味財産 (資産総額 - 負債総額)		7,843,949,566

◆ 貸借対照表

貸借対照表
(平成22年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,866,328,508	7,903,442,541	37,114,033
有形固定資産	6,053,700,025	6,195,198,504	141,498,479
土 地	467,214,532	467,214,532	0
建 物	4,877,059,598	5,025,141,596	148,081,998
その他の有形固定資産	709,425,895	702,842,376	6,583,519
その他の固定資産	1,812,628,483	1,708,244,037	104,384,446
借地権	2,674,000	2,674,000	0
その他の固定資産	1,809,954,483	1,705,570,037	104,384,446
流動資産	967,677,898	941,463,879	26,214,019
現金預金	944,208,528	894,548,408	49,660,120
その他の流動資産	23,469,370	46,915,471	23,446,101
資産の部合計	8,834,006,406	8,844,906,420	10,900,014
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	713,514,522	730,721,473	17,206,951
長期借入金	472,570,000	501,090,000	28,520,000
退職給与引当金	230,654,916	229,631,473	1,023,443
その他の固定資産	10,289,606	0	10,289,606
流動負債	276,542,318	303,036,220	26,493,902
短期借入金	28,520,000	28,320,000	200,000
その他の流動負債	248,022,318	274,716,220	26,693,902
負債の部合計	990,056,840	1,033,757,693	43,700,853
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,140,977,956	9,236,511,013	95,533,057
第2号基本金	657,000,000	577,000,000	80,000,000
第3号基本金	200,000,000	200,000,000	0
第4号基本金	119,000,000	119,000,000	0
基本金の部合計	10,116,977,956	10,132,511,013	15,533,057
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
年度消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	2,273,028,390	2,321,362,286	48,333,896
消費収支差額の部合計	2,273,028,390	2,321,362,286	48,333,896
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	8,834,006,406	8,844,906,420	10,900,014

◆ 監事による監査報告書

監 査 報 告 書

平成 22年 5月 10日

学校法人 東京純心女子学園

理 事 会 御 中

学校法人 東京純心女子学園

評 議 員 会 御 中

学校法人 東京純心女子学園

監 事 榊 原 一 郎 ⑩

監 事 宮 本 久 雄 ⑩

私たちは、学校法人東京純心女子学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成21年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

◆ 過去5年間の消費収支計算書・貸借対照表

金額（百万円単位）及び比率等は、いずれも項目ごとに端数を四捨五入しているため、各項目の合計と計欄が一致しないことがあります。

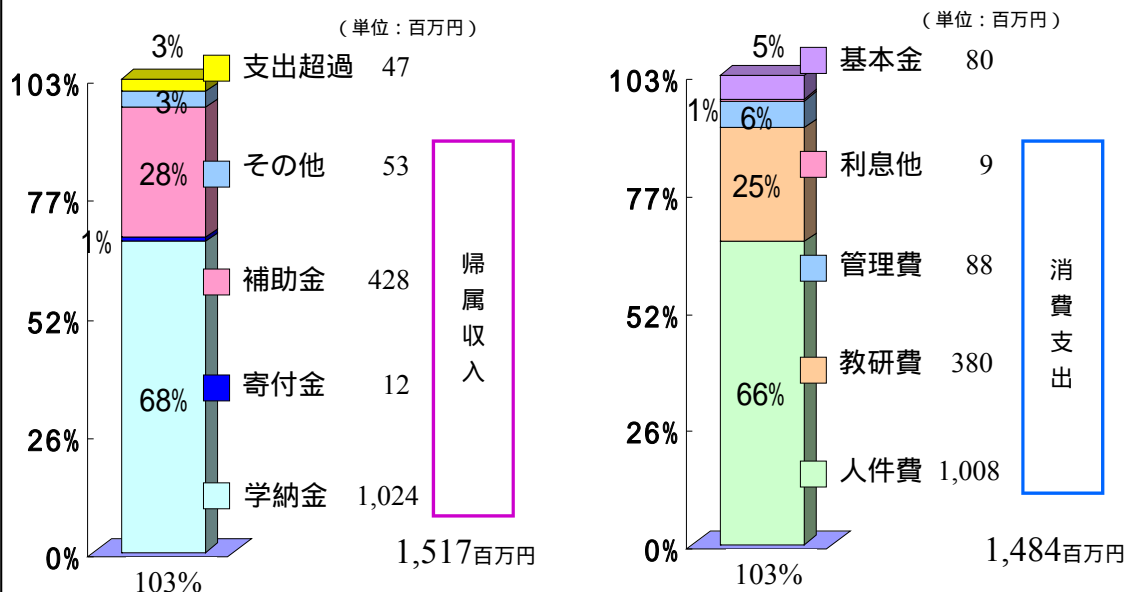
< 年度別 消費収支計算書 >

（単位：百万円）

年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学生生徒等納付金	1,169	1,203	1,185	1,114	1,024
寄付金	12	9	14	7	12
補助金	503	423	486	484	428
資産運用収入	4	6	14	20	13
その他収入	89	128	83	73	40
帰属収入合計	1,778	1,769	1,783	1,698	1,517
基本金組入額合計	118	138	161	181	80
消費収入の部合計	1,660	1,631	1,622	1,518	1,437
人件費	1,166	1,249	1,192	1,084	1,008
教育研究経費	409	407	386	412	380
管理経費	73	79	80	86	88
借入金等利息	10	9	8	7	6
その他支出	14	2	23	45	2
消費支出の部合計	1,672	1,747	1,690	1,634	1,484
当年度消費収支差額	12	115	68	116	47

参 考

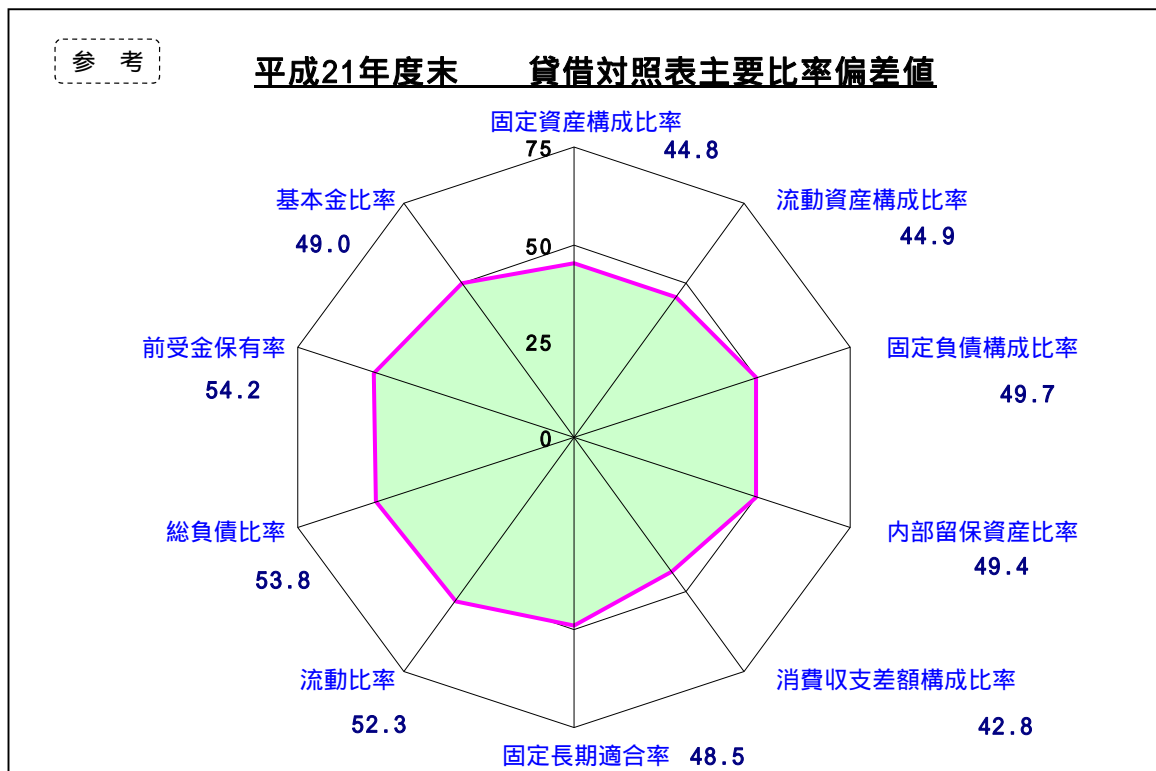
平成21年度 消費収支のグラフ



<年度別 貸借対照表>

(単位：百万円)

年 度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
固定資産	7,867	7,905	7,898	7,903	7,866
有形固定資産	6,426	6,323	6,270	6,195	6,054
土地	467	467	467	467	467
建物	5,175	5,085	5,062	5,025	4,877
図書	527	535	544	551	558
その他の有形固定資産	257	236	197	152	151
その他の固定資産	1,441	1,579	1,628	1,708	1,813
施設引当資産	311	449	497	577	657
第3号引当特定資産	200	200	200	200	200
その他の固定資産	1,130	930	931	931	956
流動資産	964	919	953	941	968
現金預金	916	812	886	895	944
その他の流動資産	48	107	67	46	23
資産の部合計	8,831	8,824	8,851	8,844	8,834
固定負債	816	791	760	730	714
流動負債	384	379	344	303	277
負債の部合計	1,200	1,170	1,104	1,033	990
基本金	9,722	9,791	9,952	10,132	10,117
消費収支差額	2,091	2,137	2,205	2,321	2,273
負債、基本金及び消費収支差額の合計	8,831	8,824	8,851	8,844	8,834



平成21年度版「今日の私学財政 大学・短期大学編 日本私立学校振興・共済事業団」から、
 大学法人のうち上下各2.5%を除くデータを参考にしています。

比率名の前の記号「」は高い値がよい比率、「」は低い値がよい比率とされております。

◆ 平成22年度 主な事業の計画

1. 大学の部

(1) 「多様なコースの学び」の設置などカリキュラムの改革

平成22年度に芸術文化学科の学生募集を停止して国際教養学科へ統合し、現代文化学部国際教養学科、こども文化学科の1学部2学科（学生定員120名）の新しい体制となります。学科の再編成に伴い、平成22年度より「16のコース」は『国際教養』『英語文化』『保育』『初等教育』『あそび文化』『美術・デザイン』『キリスト教芸術文化』などからなる「多様なコースの学び」に統合されます。カリキュラムでは卒業要件である124単位のうち、必修科目を12単位だけと絞り込みます。平成21年度から実施している「読書論」、学外における様々な実体験から多くのことを学べる「学外研修制度」、平成23年度より開講される「セミナー」などにより、学生は自分の興味や目的・進路に合わせて、既製の学問にとらわれない自由な「学び」を選択できるようになります。

(2) セメスター制の導入

平成22年4月から春学期（4月～9月）と秋学期（10月～3月）ごとに授業が完結するセメスター制度を本格的に導入します。同一科目の授業を週に2回行うなど集中的に学ぶことで、「学び」の成果の向上が期待できます。セメスター制度の導入により、学生は留学や長期にわたる学外実習などへ、より参加しやすくなります。

(3) 上智大学との学生交流（単位互換）の実施

設立の理念を同じくするカトリック大学である上智大学と学生交流（単位互換）を実施します。交流によって、相互の大学の協力関係が深まり、カリキュラムにバラエティがもたらされ、教育内容の充実と質の向上に繋がっていくことが期待されます。

(4) 東京都立八王子北高等学校との高大連携事業

東京都立八王子北高等学校との高大連携事業を実施します。八王子北高等学校の生徒が、科目等履修生制度を利用して本学の授業を受講します。本学では、高校生に対して継続的に授業を実施し、高校教育と直接触れることにより、高校教育の現状に対する理解が深まり、本学における教育環境・指導体制の見直しや、一層の充実へとつなげていくことができます。高等学校では、生徒がより発展的・専門的な学習を体験できるとともに、生徒の学習に対する意欲や目的意識の向上、進路選択の支援につながっていくことも期待されています。

(5) 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）への取組

文部科学省の「大学改革推進事業 学生支援推進プログラム」に採択された『女子教養教育を根幹に、学びと進路の総合的一貫指導体制の強化』への取組（3年計画の2年目）を行います。

「現代文化セミナー」や「キャリアセミナー」などカリキュラムにおける進路指導体制の充実、学生の進路選択に繋がる資格取得対策試験及び講座の開講、就職活動でのスキルUP効果が期待できる一般教養・面接対策講座の実施などさまざまなプログラムを行います。平成22年度はオリエンタルランドでのキャスト体験や、島根県隠岐島海士町での農業・水産業体験など、さまざまな業種でのインターンシップ実現に積極的に取り組んでいきます。

2. 中学校・高等学校の部

(1) 中学校 SSS入試の実施

中学校入学試験において、合格者の中から成績優秀者15名程度を奨学生とし、入学金免除の特典を与えるSSS入試（スペシャル・スカラーシップ・スチューデント - 奨学生選抜）を実施します。本校及び立川駅周辺の会場で午後入試として行うことにより、他校の入試日程との関係で本校を受験できなかった受験生に対しても、受験機会を広げるものとなります。

(2) 高等学校 生徒募集活動の停止

平成19年度より段階的に実施してきた定員変更の経過措置終了に伴い、平成22年度から高等学校における募集活動を停止します。これにより中高6年間の一貫教育が可能となります。

(3) 中学校・高等学校 新カリキュラム「純心エデュケーショナル デザイン 2010」導入

若手教員が中心となった「新カリキュラム委員会」が進めていたカリキュラム、10年後の純心教育を見据えた「純心エデュケーショナル デザイン 2010」を段階的に導入します。

これまで本校の大きな強みであった英語教育に加えて数学への指導を強化し、「英語の純心」から「英語と数学の純心」の実現を図っていきます。また国公立・私立、文理・看護系などを組み合わせた7つのモデルコースを設置し、生徒一人ひとりへのきめ細かい対応を可能とした「セレチオナーレ（選択）制」を実施します。

現状をしっかりと認識し、強みを維持し、弱みを強みに変えるための新カリキュラムで、「理工系」「国公立大学」への進路選択を可能とし、生徒の未来の選択肢を更に広げるものとなります。

(4) 高等学校等就学支援金への対応

法令の施行に基づいて平成22年4月より「高等学校等就学支援金」制度が実施されます。制度は、私立高校等に通う生徒が安心して勉学に打ち込めるよう、国が授業料の一部を負担するものです。申請は学校を通して行われるため、制度の内容や手続き等についてメール・斉配信システムや配布物を活用して、保護者や生徒へ適切な周知を行います。

3. その他の事業

(1) 主な施設・設備の整備

江角記念講堂屋上の屋根シート防水部分補修工事を行います。

大学図書館棟の一部トイレの改修工事を実施します。和式から洋式への変更、洗面台・ドアの改修、床の張替え、トイレ用擬音装置「音姫」の設置などを行います。

第1体育館及び第2体育館のカーテンレール及びカーテンの取替工事を行います。

大学美術棟中央階段及び中学校舎2階廊下の床の張替工事などを行います。

(2) 防火・防災管理体制の充実

消防法の改正に伴い、学園における規程を改正し、防火・防災体制の充実を図ります。

中学校・高等学校では、緊急地震速報受信システム「クルグラット」を導入します。緊急地震速報受信システムは、地震で主な被害をもたらすS波（主要動）が到達する前に、P波（初期微動）の発生を感知し、それを事前に知らせるシステムです。大規模震災が発生した場合の、校内の被害を防止・軽減することを目的としています。

(3) 寄付金の募集

卒業生や後援会などを中心として、広く寄付金の募集を行います。募集に当たっては、本学園への一定の寄付金が税金控除の対象として認められることをホームページ等により周知していきます。

(4) 情報の公開

大学ホームページに「東京純心女子学園広報 12」を掲載し、財務情報を公開します。

平成21年度の認証評価で日本高等教育評価機構へ提出した「平成21年度 東京純心女子大学 自己評価報告書・本編」及び評価機構による「東京純心女子大学 平成21年度 大学機関別認証評価 評価報告書」を大学ホームページへの掲載により公開します。

(5) 引当特定資産の設定

施設・設備充実資金として施設設備引当特定資産（2号基本金）を設定します。

退職給与引当特定資産の充実を図ります。毎年度一定額の繰入を行い、計画最終年度平成25年度には退職給与引当特定資産を本学園の退職給与引当金に対する18%程度（現在）から50%程度の額とします。

(6) 学園としての広報活動

八王子・多摩地域における更なる認知度定着を図るため、JR八王子駅・JR立川駅中央線ホームの看板広告や、西東京バスの路線バスへのラッピングバスに広告を行います。

◆ 平成22年度の予算

1. 平成22年度予算の概要

<資金収支計算書>

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は962,844,800円と前年度よりも減少しています。平成22年度5月1日現在の大学学生在籍数が前年度よりも減少しているためです。手数料収入は14,469,400円です。大学入試センター試験の実施校とならないことなどにより、前年度よりも減少しています。寄付金収入は8,372,000円となります。今年度よりホームページ等で寄付金の募集を行います。募集にあたっては、寄付者に対しては寄付について所得税法における減免措置を受けることができる特定公益増進法人として証明書発行を行うことを周知します。補助金収入は396,428,438円と前年度よりも減少しています。大学の芸術文化学科募集停止と、学生数の減少に伴う大学経常費補助金の減額措置が厳しくなっているためです。資産運用では安全面に十分配慮した運用を行っていきます。資産運用収入は12,560,500円となります。事業収入は2,797,000円となります。大学留学生寮の廃止や、オープンカレッジの開講講座を絞り込むことなどから、前年度よりも減少しています。雑収入は51,102,181円となります。教職員の退職に伴う退職金財団からの交付金が主な収入です。借入金等収入が200,000円、前受金収入が162,325,000円、その他の収入が20,275,578円、資金収入調整勘定が232,302,500円となります。前年度繰越支払資金が944,208,528円なので、資金収入の部合計は2,343,280,925円となります。

(2) 支出の部

人件費支出は1,008,646,253円です。今年度は定年退職者の退職金支出が多く発生しています。教育研究経費は193,080,000円、管理経費は90,596,000円です。江角記念講堂屋上の屋根シートの防水部分補修工事費を、教育研究費に計上しています。借入金等利息支出は5,186,574円、借入金等返済支出は28,520,000円となります。建物等の取得にかかる日本私立学校振興・共済事業団からの借入金及び借入金利息の支出です。施設関係支出は1,650,000円です。大学図書館棟2階トイレの改修工事などによる支出です。教育研究用機器備品及び図書などの購入に伴い設備関係支出が17,060,000円となります。資産運用支出は106,132,000円です。施設・設備充実資金としての第2号基本金組入、退職給与引当特定資産への繰入を行います。その他の支出が32,764,093円、予備費が25,000,000円です。資金支出調整勘定が13,631,275円なので、次年度繰越支払資金が848,277,280円となり、資金支出の部合計は2,343,280,925円となります。

<消費収支計算書>

(1) 収入の部

学生生徒等納付金は962,844,800円、手数料は14,469,400円です。現物寄付を含めた寄付金は8,872,000円です。補助金が396,428,438円、資産運用収入が12,560,500円、事業収入が2,797,000円、雑収入が51,106,807円となるので、帰属収入合計は1,449,078,945円となります。施設・設備充実資金として第2号基本金等の組み入れを行なうことなどから、基本金組入額合計は107,509,985円となります。したがって消費収入の合計は1,341,568,960円となります。

(2) 支出の部

人件費が1,009,271,092円、減価償却額を含めた教育研究経費が376,990,956円、管理経費が95,837,989円となります。借入金等利息が5,186,574円、資産処分差額が1,400,000円、予備費が25,000,000円となります。消費支出の部合計が1,513,686,611円なので、当年度消費支出超過額は172,117,651円となります。前年度繰越消費支出超過額が2,273,028,390円なので、翌年度繰越消費支出超過額は2,445,146,041円となります。

参 考

帰属収入合計	: 全ての収入のうち学校法人の負債(借入金や預り金等)とならない収入。
基本金組入額合計	: 学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして帰属収入のうちから組み入れた金額。
消費収入の部合計	: 帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した金額。
当年度消費収入(支出)超過額	: 消費収入の部合計から消費支出の部合計を差し引いた金額。

2. 平成22年度資金収支予算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	962,844,800	人件費支出	1,008,646,253
手数料収入	14,469,400	教育研究費支出	193,080,000
寄付金収入	8,372,000	管理経費支出	90,596,000
補助金収入	396,428,438	借入金等利息支出	5,186,574
国庫補助金収入	71,007,039	借入金等返済支出	28,520,000
地方公共団体補助金収入	325,421,399	施設関係支出	1,650,000
その他の補助金収入	0	設備関係支出	17,060,000
資産運用収入	12,560,500	資産運用支出	106,132,000
資産売却収入	0	その他の支出	32,764,093
事業収入	2,797,000	予備費	25,000,000
雑収入	51,102,181	資金支出調整勘定	13,631,275
借入金等収入	200,000		
前受金収入	162,325,000		
その他の収入	20,275,578		
資金収入調整勘定	232,302,500		
前年度繰越支払資金	944,208,528	次年度繰越支払資金	848,277,280
収入の部合計	2,343,280,925	支出の部合計	2,343,280,925

3. 平成22年度消費収支予算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	962,844,800	人件費	1,009,271,092
手数料	14,469,400	教育研究費	376,990,956
寄付金	8,872,000	管理経費	95,837,989
補助金	396,428,438	借入金等利息	5,186,574
国庫補助金	71,007,039	資産処分差額	1,400,000
地方公共団体補助金	325,421,399	予備費	25,000,000
その他の補助金	0		
資産運用収入	12,560,500		
事業収入	2,797,000	消費支出の部合計	1,513,686,611
雑収入	51,106,807	当前年度消費収入(支出)超過額	172,117,651
帰属収入合計	1,449,078,945	前年度繰越消費収入(支出)超過額	2,273,028,390
基本金組入額合計	107,509,985	基本金取崩額	0
消費収入の部合計	1,341,568,960	翌年度繰越消費収入(支出)超過額	2,445,146,041

◆ 平成22年度の主な行事予定

東京純心女子大学		東京純心女子中学校・高等学校
4月	1日 入学式 2日 オリエンテーションキャンプ(～3日) 5日 オリエンテーション(～6日) 7日 授業開始 25日 オープンキャンパス	1日 春期講習(～3日) 7日 入学式 8日 始業式 10日 新入生歓迎会 12日 中1オリエンテーションキャンプ(～13日) 21日 避難訓練 24日 オープンキャンパス 28日 生徒総会 30日 授業参観(高1-2)
5月	12日 学生総会 17日 コレクション展(～6月19日) 22日 オープンキャンパス 31日 創立記念講行事	1日 授業参観(中1-3) 10日 高2長崎研修(～13日) 12日 高3修養会・危険回避講演会 22日 父母の会総会 31日 創立記念式典
6月	19日 オープンキャンパス 26日 文化講演会 いちよう塾提供講座 愛と平和のメッセンジャー“マザーテレサ”パート -いのち、愛、家庭、人生の役割、平和-(千葉茂樹氏) 26日 公開講座 いちよう塾提供講座 江戸仕草でみていく「わたしたち」の忘れ物 28日 写真部作品展(～7月25日)	2日 防災帰宅経路別集会 5日 スポーツ大会 26日 全校保護者懇談会
7月	2日 国際教養キャンプ(～3日) 24日 オープンキャンパス(～25日) 28日 春学期授業終了 31日 オープンキャンパス	1日 中学入試説明会 17日 前期終業式 19日 高1海外研修(～8月11日) 21日 夏期講習・前期(～30日)
8月	1日 オープンキャンパス 21日 オープンキャンパス	9日 中2イングリッシュキャンプ(～11日) 9日 純心祈りの日 23日 夏期講習・後期(～28日)
9月	11日 オープンキャンパス 18日 オープンキャンパス 19日 野外文化活動 夏キャンプ実習(～21日) 22日 学位記授与式(9月卒業生) 23日 高尾英語キャンプ(～25日) 24日 秋学期授業開始	1日 後期始業式、帰宅経路別訓練 19日 純心祭(～20日)・中学入試説明会
10月	9日 オープンキャンパス 14日 卒業演奏中間発表会(芸術文化) 18日 コレクション展(～11月7日) 27日 卒業論文・卒業研究中間発表(現代英語)	23日 中学入試説明会 27日 中3学習旅行(～30日) 28日 中1ホンダ発見体験学習(～30日) 28日 中2高遠移動教室(～30日) 29日 高1学年研修(～30日)・高2-3学年研修
11月	6日 聖母祭(～7日)、オープンキャンパス(6日) 10日 推薦入試 期、特待生・特別奨学生入試 17日 学芸員課程学生企画展	10日 中学入試説明会 11日 芸術鑑賞会 17日 生徒会役員選挙 24日 高校スピーチコンテスト
12月	4日 こどもの国のクリスマス 9日 クリスマスの集い 12日 クリスマスコンサート 15日 推薦入試 期、特待生・特別奨学生入試	4日 中学入試説明会 22日 クリスマス会 23日 クリスマスページェント
1月	13日 卒業制作本審査(芸術文化) 17日 卒業制作展(こども文化学科 24日) 20日 卒業制作展(芸術文化学科 2月5日) 21日 卒業論文発表会(芸術文化) 31日 秋学期授業終了日、一般入試A	15日 センター試験(～16日) 17日 高校お別れ会 19日 中3修養会
2月	5日 卒業論文発表会(現代英語) 10日 卒業論文等発表会(こども文化) 15日 野外文化活動 冬キャンプ実習 27日 公開講座 いちよう塾提供講座 ジョイントコンサート 27日 オープンキャンパス	1日 中学入試(1～2日、4日) 16日 中学スピーチコンテスト 23日 中学合唱コンクール 26日 マラソン大会
3月	5日 一般入試B 18日 学位授与式、卒業演奏会 25日 一般入試C	5日 高校卒業式 22日 中学卒業式・後期終業式



この学園章は、学園の保護者である聖母マリアの「けがれのない心」を表しています。中心に「心」という文字をデザインし、横線はその御徳を意味しています。

東京純心女子学園 広報 No.12

発行 平成22年7月

学校法人 東京純心女子学園

〒192-0011 東京都八王子市滝山町2-600

TEL. 042-691-1345 FAX 042-691-1325